

世臣傳

一上

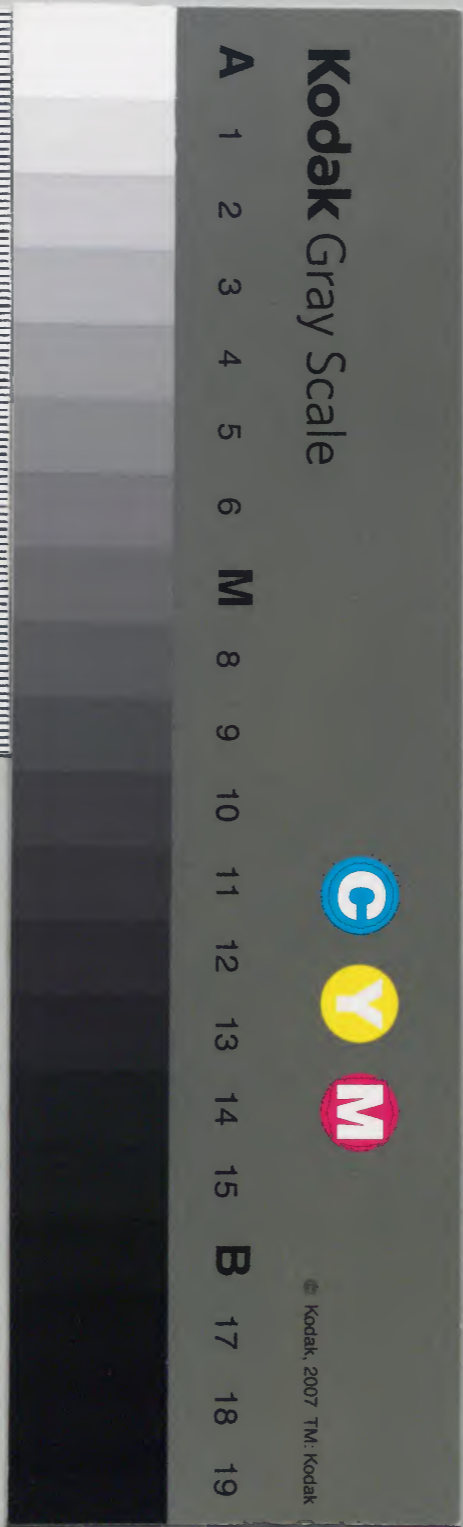
内閣文庫		
三	五	七
九	〇	冊
二	架	號

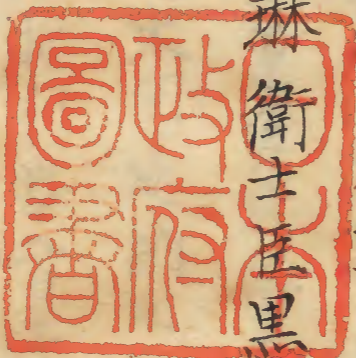
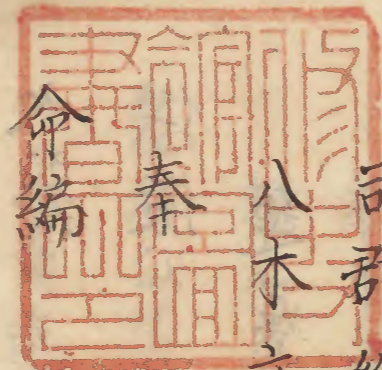
和書
三
五
七
九
冊

史一二四

内閣文庫	
番號	和 31579
冊數	10 (1)
函號	155 74

155-74





司部總管臣佐野武保臣成田賴直國學儒貞臣
八木文琳衛士臣黑田則恭臣鈴木至易等茲者

傑俊

慈明高公之世委質世臣等傳今已成書謹用繕寫
進呈臣武保等誠惶誠恐頓首頓首

上言伏以

元天之際四海鼎沸群雄並爭我

宗德公起

身于

織田氏之下冒矢石履危險踣萬死一生之塗立勲乎

中原剖

符於北陸鬱爲

大藩

傑俊公

運屬數奇盛

封削土猶推金澤十萬之師奏浪華兩戰之功者

雖劣策略會其機

指麾合其節亦咸得人材之所致也

慈明公養之大開延納之路設榮爵懸厚祿召用名

士負逸才抱利益者于々濟々接踵而臻相共光補

守成之業建

維藩無疆之基嗚呼盛矣哉然歷載愈遠賢相良佐

之績闕而不得卜世益壯士武卒之烈將至湮沒

雄峯公深憂其然曩命諸臣納家譜私牒纂世祿譜於

是乎世系可叙勲業且考

君公今復者

此舉微者愈顯幽者愈闡其所以嘉惠群臣者至
矣不矣臣等仰奉

隆命俯竭微勞才固無三長恐是非予奪之不確任允當

五難慚疑似謬忘之難明伏望

君公呈下

辱賜

尊覽棄所短錄所長宥狂妄一得之愚有償盛意萬分

之一無任感

息悚惕之至謹奉表

以

聞

享和三年五月日

司郡總管臣佐野武保等謹

上表

凡例

一 此書は、傳後之慶長六年古渡と揚子とあり付小娘と

意以之定宝七年懸^車第^二とあり付小娘とあり凡七年の年乃

間福揚とあり家代傳化也

懸^車第^二とあり付小娘とあり凡七年の年乃
意以之定宝七年懸^車第^二とあり付小娘とあり凡七年の年乃
間福揚とあり家代傳化也

一 此書の口何小娘とあり回史乃例を以て官を改八年とあり

一 家とあり序とあり年とあり長祿乃高年右佐の多か

一 以本出仕乃高年小娘とあり

一 執事如常以事乃家中心に在古臣の侍乃人として始先中

他人化也

一 本家より家統は古庶流の中家統より其後小中家

始末は此の如

一 傳毎乃より小系國作と載りしより之を人爲りしと謂ふ

乃家系早世未と詳なりと云ふ考索小由なり也ハ大抵と記

一 記

一 此傳門と云ふ事始末の如く一と云ふ始末見ふ事なり

亦る在り傳何乃公位預田乃事始末玉と云ふ事と云ふ事也

と云ふと云ふ乃事小傳つて家の是世世の執事なりと云ふ

と云ふ事なりと云ふ事小傳つて事なりと云ふ事なりと云ふ事

百き人乃事傳り事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事

乃事一人或は事出乃事と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事

扱記一の二官名事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事

事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事

一 始乃事小多事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事

一 始乃事小多事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事

傳と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事

老翁の料 楊子常例の記と
 一 未流の家の親族乃近き御先とする藩籍の例
 一 此傳と作る世孫傳と以て元々一門の家より奉りし
 一 家後小石と記し之を官有秘本とす其を窺ふ
 一 只湯多の久事と記し之を上代の系統とす
 一 亦と足利氏乃末世より海軍乃後小石の事
 一 記し之を東陸海始小一伝長大閣後傳等の諸記
 一 此考し之記也

世臣傳卷一之上

大谷

此無間元秀
治外右衛門尉

至正今伝傳
傳外右衛門尉

他三書委員

淺見丹羽

掃部助忠政

内膳忠誨

新右衛門政常

丹羽

左衛門長清

権右衛門俊智

卷一之下

成田

左衛門重建
外記左衛門実

助四郎家信

伝外右衛門信富

種橋

惣右衛門一章
筑前成興

喜内康

門兵衛一成

関

八右衛門重英

久國長三忠基

長屋

茂左衛門元吉

卷之二

中川

文右衛門奉志

浅尾

数右衛門重常

方高根

三右衛門春久
孫左衛門正利

三右衛門安貞

三右衛門春武

稻井

彌左衛門重次

黒田左衛門重忠

山田左衛門家重

水野

新左衛門某

岩本

左衛門正明

奥野

彦左衛門某

平右衛門正弘

高橋

左衛門某

下河邊

庄右衛門行武

少右衛門行渡

上田

伊藤重通

山田丹羽

石見守正次
三馬明親
曾孫南秀明
傳十郎正明

近右衛門常明
丹治明平
八郎左衛門昌明
全友正忠

三馬美明
近右衛門明橋
傳一節某

三谷

權兵衛正胤

伴右衛門某

予城

傳左衛門安

東條左衛門久矩

中井

彌次右衛門重次

土屋

甚右衛門有清

川村宗庵南津

神田

齊宮之分政久

卷之三

早川

吉正門集

平六智集

日野

新右衛門重尚

丹右衛門尚元

孫右衛門好辰

奥田

半兵衛集
仁右衛門方格

大右衛門孝行

清次郎武治

植

四郎兵衛集

鈴木

又左衛門重庸

三澤

小右衛門吉高

瀨尾

喜左衛門利澄

井上兵衛衛利經

大楠

六右衛門集

原

兵部丞成秀

七右衛門信定

土肥

治右衛門集

渡邊

丹右衛門集

服部

左衛門保久

丹羽

八右衛門重次
但右衛門重成

久馬介重時
小平太重昌

本村

左衛門智定

伊藤

兵部右衛門集

高松

十右衛門成嘉

梅津右衛門成

平島

四右衛門新

半十郎心勝

卷之四

山田

菅原氏集

大石氏文集

武谷 今村

伊兵衛集

七郎氏集

海江氏集

植木

次郎氏門當廣

大岡

市右衛門房宗

今右衛門忠房

村越

久吉氏門貞次

久吉氏貞家

吉田

庄介重清

中澤

仁右衛門重綱

小形

伊兵衛道重

宗右衛門重道

吉川

造酒之入正武

村崎

法吉氏門正保

甚平重正

梅原

大膳集

新吉氏包

彦八集

上崎

久吉氏門集

重吉氏門集

萩原

六之丞景次

名膳氏門景章

吉田

平九郎正宗

龜之進正家

海右衛門集

野田

松右衛門正清

龜之進正家

服部

六郎右衛門長吉

成尾

源吉右衛門雄

島居氏門雄澄

安井

仁吉門前時

九尾門前時

安田

惣吉門前某

佐倉

六吉門前某

中村

善兵衛後

共三門前時

矢部 同心

信吉門前某

六吉門前時

三田

五兵衛某

小野

十右衛門某

卷之五

江口

三吉門前時

西崎

佐吉門前時

白岩

伊吉門前時

土田

信吉門前時

堀

新藏人常連

小林

金吉門前某

佐野

北三門前某

月忌

玄蕃朝廣

安保

忠三門前時

吉三門前時

齋藤

小今由一

信吉門前時

卷之六

寺西	四郡兵備是公	六日兵門是賢
南部	此兵備某	
鹿野	平兵備正增	
青戸	市郡兵備茲久	
渡邊	四兵衛某	
石橋	劫兵備負魁	
會田	右兵備某	
中村	海右兵備某	

佐野	善兵衛相具	兵右兵門具福
熊谷	十郡兵備正吉	
日笠	控兵備某	福兵備正兵衛致幸
吉岡	右兵衛某	
山田	兵右兵門志道	
毛利	兵右兵門某	
長	市右兵門成貞	
吉岡	嘉兵衛門某	
青山丹	助兵備長清 年正正次	七兵右兵門正家 兵右兵門正家 又八正之

上田

賞吉門利度

依包

源吉房可清

小池

武吉門某

壬午年吉門恒好

安部井

又之丞長吉

星

忠兵衛實良

大山

清吉門某

羽本

権吉門貞利

市之進清良

小澤

長吉門正吉

膳本

久助宣盈

伴

賢吉門心秀

卷之七

原

大右衛門信昌

初右衛門寛忠

今江

吉兵衛貞能

藤田

八右衛門某

小暮

室吉某

黒川

吉兵衛盛忠

佐左衛門盛政

新

勘吉房某

小右衛門某

石黒

平左衛門某

立入

嘉右衛門某

本車

六右衛門吉家

足田

河内吉門平綱

和田

外記吉門清光
西人吉包

正書吉清

右文吉久

天野

平右衛門某

今泉

藤吉門某

香西

信右衛門方某

龍川

正書某

長澤

三右衛門某

長元正係

全同

南庵某

卷八之上

中川

助右衛門正係
惣右衛門正房

長元正盛

市右衛門正

寺田

伊右衛門正係

三宅

藤右衛門正係

城田

藤右衛門政棟

内藤

新右衛門正次

平松

平右衛門正明

三浦

藤右衛門某

高橋

高橋元基

白石

白石元基

本村

本村元基

中原

七右衛門五正

長野

道明能久

幸山

惣兵衛安英

長尾

平兵衛道明

遠藤

右兵衛経信

源房佐九郎正親

横江

五右衛門重徳

徳山英清

松村

勘兵衛正時

尾花

安兵衛明英

須賀

平兵衛基

卷八之下

根来

八右衛門重明

押田龜吉元基

根来

仙石兵衛正徳

根来

右兵衛門貞房

高橋

次郎兵衛政時

寺村嘉兵衛正親

根来

源右衛門重門

杯平久重門

磯村

文之悅吉注

齋藤

光吉傳秋盛

森村毛判

良

久右衛門良高

青木

平右衛門道重

味長

敏右衛門道春

竹村

権右衛門

田崎

市右衛門

武田

伊右衛門芳次

木滝

四右衛門忠清

山本

又右衛門

中井

貴右衛門

崎田

伊右衛門

北村

王右衛門

大谷 本國尾張 家紋三頭巴

參議乙磨卿後志摩守行信 十世孫彌兵衛吉秀長男

藤原元秀 彦子郎 兵衛 母今川後理大夫氏親女

元勝 治右衛門 後刺髮号 宗岡

政利 吉大夫 源八

信正 岡安兵衛宣明養子

女子元 小川良元妻 高松義右衛門某妻

元義 治右衛門 内藏 安貞大谷彦十郎信三男

勝政 助大夫 傳兵衛

元備 与惣左衛門 實上田清左衛門林友男

行房 小次郎 与惣右衛門 實上田金五郎用茂男

元侍 巨 傳兵衛 母西崎園左衛門善純女

女子元 奥野甚左衛門正則妻 系 平藏某妻 再嫁里見孫摩某

元資

母佐藤 彦右衛門某女

元暉

左門
母同上

女子三

丹羽平門某妻
久保忠十郎常典妻
澤井銀右衛門某妻

秀成

午之助 左馬介 志广守
母巖山松生坊女

信澄

四郎兵衛 早世
母同上

直信

陽左衛門
母同上

吉治

半左衛門
母同上

重門

初元信 彦十郎 治部左衛門
母瀨名刑部少輔親永女

女元

丹羽長門守長俊妻
上 田伊織重道妻

信之

午之介 彦十郎
母同上

信常

彌五郎
淺尾治五郎成常養子

信淳

彦左衛門
初大谷主米介信通養子後
他名初標田兵介

信三

内藏介 十郎兵衛
致仕号 横田并休

女子四

大谷主米介 信通妻
服部九郎兵衛某妻
安井長左衛門某妻
兒玉孫之之某妻

信鯨

見太郎 治部左衛門
母吉田清左衛門貞門女

元義

内藏
大谷兵三兵衛行房養子

秀治

左右衛門
實志广守秀成三男寛又元年
戊申六月二日死無嗣子家断絶

信次

彦三郎
母横田治部左衛門存茂女

信忠

初太郎七次部右衛門
母神田存富某女
後依病辞禄称瀨名權藏

信允

初信常 幼名建松 忠十郎
彦十郎 致仕号 讓山

信堅

次左衛門
同氏主米介信通養子

信續

兵庫 彦十郎
母樽井彦五郎次倫女

女子 早世

女子 丹羽圖書忠亮妻

信明

次左衛門
同氏平馬信堅養子

信高

彦二郎 早世

信積

左門 十郎兵衛
實大谷平馬信堅三男

女子

養子信積妻

正積

直之進 治郎左門
實梅原流三左門清親三男

女子三人

養子正積妻
大谷平馬繼業妻
丹羽岡之進明愛妻

信統

東山 十郎兵衛
實北治合道伯應三男

女子二人

養子信統妻
流合宗琢世範妻

清綏

安左門
寺西安左門清則養子

君達

初常毅 兵庫 彦十郎
致仕号 瑞白泉
母丹羽圖書重休女

信如

兵十郎

繼業

平馬
同氏主米介信典養子

直哲

多作
山田定左門直方養子

女子

丹羽圖書齋賢妻

信迪

初元德 長門 四郎左門 彦十郎
母成田浦左門正備女

秀包

十郎左門
秋田左門秀以 三春秋田 養子
家臣

信彰

兵庫
母丹羽圖書齋賢女

護免

甚五右門
青山伊記正成養子

包敬

并門
味岡久左門包教養子

常照

千葉之介
淺尾數馬常遠養子

女子三人

秋田平左門某 秋田妻
丹羽將監忠須妻
黒田傳太夫倫愈妻

教恩

秀信兄
出家住叡山北谷

秀信

四郎左門 羊兵衛 典兵衛
致仕号了 聽母堤權右門教典女

信通

主米介
母同上

秀治

堂五右門
同氏半右門吉治養子

信堅

治左門 平馬
致仕号 讓休
實彦十郎信三男

秀貞

二部三郎 助之丞
母同上

女子

神田齋宮政次妻

武明

助之丞 二部三郎
母堀六郎右門某女

女子

中村十左門某妻

元矩

二部三郎 致仕号二階堂三三
母日野丹右門尚元女

某

佐次右門

武屨

幸左五門
母同上

女子

青山左門正尚妻

某

佐仲
本家二部三郎元矩養子

元真

雨戸介 二部左門
實山田善左門正親二男

某

勝美

某

佐仲 生奈
實幸左門武屨長男

有英

幸介
實山田兵大夫貞常二男

秀爲

日根照 甚右門 共兵衛
母丹羽立部兵衛長清女

正則

丈大夫
神田齋宮政次養子

女子三人

梶間源之丞某妻
宮典二左門某妻
青山甚左門某妻

信英

初信明 治左門 主米介
實彦十郎信九二男

胤良

勘兵衛
奈大右門昌好養子

信積

十部兵衛
同氏治部左門信歸養子

繼業

主鏡 平馬 致仕号面川
實彦十郎信續三男

信春

主米
兄繼業養子

女子

岡半左門氏盛妻
實松幸吉左門某女

信春

主米
實主米介信英二男

信島

主稅 登祿太 主米介
母大谷十郎兵衛信積女

直祐

長士口
小川良仙某養子

幹孝

嘉盛
玉造弥兵衛久那養子

信吉

此母
毛利宗十郎義正養子

女子

關儀太夫正應妻

元道

幸介 二部三郎
母土田源六入道道長女

女子

實上崎金兵衛某女
丹羽右仲政辰妻
實長澤右近之某女

元覺

主水 志上 共兵衛
母樽井弥左門次倫女

元敬

甚左門
兄元覺養子

女子三人

長澤三右門某妻
日野衛守元敬妻
丹羽弥一郎某妻

元敬

是右衛門 志广
實秀為二男

女子四

丹羽庄兵衛昔明妻
丹羽圖書務賢妻
長屋茂左衛門政和妻
梅原弥一郎尚茂妻
後改嫁和田右文清

元良

志摩 典兵衛
母家女

元義

志广 孫兵衛左馬介
母成田筑後正元女

元忠

善右衛門

世臣傳卷一之上

大台

共兵衛為元秀と多子孫乙磨郷乃道商備岳極吉秀
ノ男ナリ乙磨郷十四代の孫主計元行政ノ所ナリ乙磨
惣西二階堂ニ移ル古大台家政下ノ事跡奉ル是事
二階堂中ニ多子孫乙磨郷ノ事跡奉ル是事
政十八代四初尾門所道志广建武の乱乃氏乃軍小
所一軍切方乃一ノ事跡乃山池田の地代物院在
中ノ事跡一乃守乃乃一ノ事跡乃乃一ノ事跡乃乃一ノ事跡

父と佐子字切りし一六別り作と云く尾張の玉丹の
那信屋座間藤村回野多入大谷字の邑持揚大谷乃
地小移り信と云世六河の人 大谷郷と云り子孫大谷と
改名ありしハ此河上某と云す一ハ新波の家次尾張
乃玉の守護たし一ハ大谷子孫お乃河の信家乃
被家のやうなりなりお乃河信お十代に逃信言所子玉
と助波の家妻(おとな)なり多識同族格皆日と云
聖子なりと云ハ那くと世の礼と云うなりと云す且と云乃
福言是也と思ふらん但形小帳中と云ハ村小引巻

入道

一と云世中と云一清色おおと云と云ハ
禪慶公 修徳院長政
子の山守なり 元 某志たし一と云りと云と云ハ

佐子を治り乃寺小入と云禪と云たしと云乃
子孫若吉某のそ元某父なりと云初代信吉吉某の
中某と云家玉の礼と云年述と云小有と云と云由と云
汝志と云一強河玉と云ありと云乃家小住(昔の者信と云
り)と云有と云世と云元某小と云と云と云と云と云
我知多ありと云一と云家元と云某雨法也一と云妹と云
と云是元某の母と云と云天文正平八月吉某父也

新由すゝとてなふおぼしき所あり

宗徳公藏回船ノ事ハ何ノ事ニシテモ其ノ事ニテ

一ノ事ニシテモ其ノ事ニテ一ノ事ニシテモ其ノ事ニテ

事ノ思ヒ清海ノ事ハ其ノ事ニテモ其ノ事ニテ

申スルハ其ノ事ニテモ其ノ事ニテ一ノ事ニシテ

其ノ事ニシテ一ノ事ニシテ一ノ事ニシテ一ノ事ニシテ

三ノ事ニシテ一ノ事ニシテ一ノ事ニシテ一ノ事ニシテ

作ルモ其ノ事ニシテ一ノ事ニシテ一ノ事ニシテ一ノ事ニシテ

一ノ事ニシテ一ノ事ニシテ一ノ事ニシテ一ノ事ニシテ

此道ハ吉成ノ大ノ事ニシテ一ノ事ニシテ一ノ事ニシテ

仕奉ルハ其ノ事ニシテ一ノ事ニシテ一ノ事ニシテ一ノ事ニシテ

本年相模河ノ物ハ其ノ事ニシテ一ノ事ニシテ一ノ事ニシテ

元来ノ事ニシテ一ノ事ニシテ一ノ事ニシテ一ノ事ニシテ

宗徳公作ルモ其ノ事ニシテ一ノ事ニシテ一ノ事ニシテ一ノ事ニシテ

今ノ事ニシテ一ノ事ニシテ一ノ事ニシテ一ノ事ニシテ

同ノ事ニシテ一ノ事ニシテ一ノ事ニシテ一ノ事ニシテ

何ノ事ニシテ一ノ事ニシテ一ノ事ニシテ一ノ事ニシテ

今ノ事ニシテ一ノ事ニシテ一ノ事ニシテ一ノ事ニシテ

小吉秀の 山前小侍より一たやうに松本を討つるに八

年お原系冠公に好む為小判とて此の年討吉秀秀次

の世仗と奉る 流るるありし世仗の世仗と奉る

流るるありし世仗の世仗と奉る

流るるありし世仗の世仗と奉る

流るるありし世仗の世仗と奉る

小判 日正平九月進口必死言事の内御小首と切る年二つ

明年八月何等の五六内のはたかきと申 何先登下と

親代擔 元龜元年四月新三郎の山前同士の我小首

と新す本年とて本年十月進口必死言事の内御小首と切る年二つ

横名より山馬子迄より一後流るる年御死よりなる代

吉秀の書の内と新くするに二年 公進口必死言事

乃捕揚とてのり所吉秀の留年 世仗 乃本年と奉るに元

年進口必死言事の内御小首と切る年九月廿日

龜津吉持とヤチ一此所一葉乃本年八月廿日

意門より捕取る年 何吉秀の一番小旗入るに

吉秀のめりし志一や者ん吉秀の所りしとて

中より 所よりとて新く日二年 國よりより山前家小

上曰三年平山家越口四平 公惟信の氏神揚る
ゆりてく直江玉をす小舟く 名をく一此年信
朝一とる口五年 元伊小籠也而正所の月早月信家
他記 信とかりく高きす口五年と早代の多子年
十月越中とのとく都小登るいりるあふ 公直江
山極なる城小ありと 山住と揚る古く世のあやふ
信信を揚る 幸者 士大將と命をせ口五年信家越の城小
吉平吉平と口一 案同信改 二とら と信を山住信家門
と生揚る まあを平しはは 九月 公朝号山小移らるといひ一信

同公為信の城小地信多信く吉平あ揚る そを 口九月
能登の末出林の物小村上溝口乃く一と池向く高きす
根尾信信はなと 口五年小物の出陣二方乃ち信と命を
らゆし吉平あしたとるあゆらと信をら小信一やる
口五年十月はの年平ヤとく信りゆ 信園信直 吉平あ
男子二のり改甲信吉門元信別小信吉平のい信子信
吉平信改や元家の初名信信之平三月七歳の信
宗信云而身自く古信直信平初元家あと古 元家初名信直
一信 公朝一信名あはは川首信の外信直信の一字信直とて信直
の字の初年 一と元家と名あり信直平初と信直直る元家一信元

和子 同十一年九月十日 辰吉子の孫母小生平十六日父

元と云ふ事 藤田家の印威御りし事 名作共其母と改

名すとの 作と云ふ事 元ま初孫小生平家の南土 和理全平の首と云

事 藤田家の印威御りし事 名作共其母と改 元と云ふ事

元と云ふ事 藤田家の印威御りし事 名作共其母と改

元と云ふ事 藤田家の印威御りし事 名作共其母と改

元と云ふ事 藤田家の印威御りし事 名作共其母と改

元と云ふ事 藤田家の印威御りし事 名作共其母と改

元と云ふ事 藤田家の印威御りし事 名作共其母と改

元と云ふ事 藤田家の印威御りし事 名作共其母と改

小生平の父と傳ふ事 乃我母小生平を言ふ事と云ふ事

事 藤田家の印威御りし事 名作共其母と改

元と云ふ事 藤田家の印威御りし事 名作共其母と改

元と云ふ事 藤田家の印威御りし事 名作共其母と改

元と云ふ事 藤田家の印威御りし事 名作共其母と改

元と云ふ事 藤田家の印威御りし事 名作共其母と改

元と云ふ事 藤田家の印威御りし事 名作共其母と改

元と云ふ事 藤田家の印威御りし事 名作共其母と改

元と云ふ事 藤田家の印威御りし事 名作共其母と改

元と云ふ事 藤田家の印威御りし事 名作共其母と改

元と云ふ事 藤田家の印威御りし事 名作共其母と改

乃乎後作、成政、代り、何元、條傳云乃

先存打く、記、何元、代り、何元、條傳云乃

有る、年人、と、何元、代り、何元、條傳云乃

此所元、何元、代り、何元、條傳云乃
此所元、何元、代り、何元、條傳云乃
此所元、何元、代り、何元、條傳云乃
此所元、何元、代り、何元、條傳云乃
此所元、何元、代り、何元、條傳云乃
此所元、何元、代り、何元、條傳云乃
此所元、何元、代り、何元、條傳云乃
此所元、何元、代り、何元、條傳云乃
此所元、何元、代り、何元、條傳云乃
此所元、何元、代り、何元、條傳云乃

十月、何元、代り、何元、條傳云乃

此所元、何元、代り、何元、條傳云乃
此所元、何元、代り、何元、條傳云乃
此所元、何元、代り、何元、條傳云乃
此所元、何元、代り、何元、條傳云乃
此所元、何元、代り、何元、條傳云乃
此所元、何元、代り、何元、條傳云乃
此所元、何元、代り、何元、條傳云乃
此所元、何元、代り、何元、條傳云乃
此所元、何元、代り、何元、條傳云乃
此所元、何元、代り、何元、條傳云乃

田原川多水ありし係ありて小舟ありて志一休ありきまよる

川汝のそや此年いり乃世々志るべしや作りと此所の作中宗世出る年

あつたこの地は日六平にすおのりありし所一休一志とす

西小野一志とす元来より元来より元来より元来より元来より

年七月常陸の山古原江を穿ち石揚りてり乃何元来より元来より

後りの研日十九年乃冬大坂西原中尾に明る元和元年

乃其あむ月七り天王寺妻長乃我知小島美前ありて高野の

即感少路。此所より小坂田中より江原を越えり元来より元来より及如智考

んはりしとす元来より元来より元来より元来より元来より

涉りてす所方及水海との記す。此所より小坂田中より江原を越えり元来より元来より及如智考

乃如(揚)らるる乃何元来より元来より元来より元来より元来より

乃如(揚)らるる乃何元来より元来より元来より元来より元来より

乃如(揚)らるる乃何元来より元来より元来より元来より元来より

乃如(揚)らるる乃何元来より元来より元来より元来より元来より

乃如(揚)らるる乃何元来より元来より元来より元来より元来より

乃如(揚)らるる乃何元来より元来より元来より元来より元来より

乃如(揚)らるる乃何元来より元来より元来より元来より元来より

二十五年三月の首とあり本年十八日御野路の御家より

す一と也 傳信云古伝書傳りての年何所民も信意と傳

貞徳重し少いとのみとて官庭も御所なりとおもふ伝信云古伝書傳り

酒井雅集の遺世 土井大炊乃今其年と奉りて

承信く日皇在東御所此年其常の奉りたりとて

其月小御所とてとて元来と奉りたる傳りて小所民其

御所より傳りて御所なり 公の御所傳りて小所民其

と元来傳りてと奉りたる傳りて小所民其

御所より傳りて御所なり 公の御所傳りて小所民其

その御所長と其御所なり

お前より小所より人其多し其年一日の御

所より及んぬ御所より御所より御所より御所より

御所より御所より御所より御所より御所より御所より

御所より御所より御所より御所より御所より御所より

御所より御所より御所より御所より御所より御所より

御所より御所より御所より御所より御所より御所より

御所より御所より御所より御所より御所より御所より

御所より御所より御所より御所より御所より御所より

准前百十人音流別するの事年々より公乃且百向ふ計は社授
と交りしりい或向方の雷くおのこりしすす作し年作一年
所不同元意乃長と云り年一元秀の常二女阿子法
二田四前長任隆子世す二田二長門中任大任の物也小
高名より元わ九年一四家と云出也四田中長門長任阿
けし高しや 四家と云至く天守の後石台十藏小任公高
名一法 慈明云より任也百原とのい 慈明應二年一
死一養子生正高秀治隆く信死一子やたより元家
純の二田法印世の重門なり女と丹羽高門守家の内室とく

常長母の母なり 婦田志麻守妻成 初ねり天守五年 常長四年 養子の田中屋と云
傑作の所身込く百任と大任乃後小任一と月七より江前
あり高名一元わ九年九月不任と揚の音日八年七月元
一の家と云 秀成小者名五田 室前中首長と云 報政の極少と云也寛永四年
八月地也の 再公揚 日十三年信一谷溝 梁 隆と治るなり後
と揚と云しり 世おのり 世おのり 秀成の事と云 沖泰の事と云
なり一法 一将軍の家お市と河孫の娘と揚の百七年
九月おは一明と十三年二月おの事と云と云す
秀成の常一女阿の長男ハ出家 教母と云し一田四長任

秀伝家とて... 三田五系入 伝通 四田史 北高秀 治平

ノ嗣方ク 常二市二市 秀の自方ク 一女と神田某 亦名一

婦人 其母秀 伝寛の由 十七年九月 父譲と云ケル 首名 昌

守 六云大徳次之 治平七十年 乃奉と奉 合行伝通と云 乃云の石

寛文元年八月 世子 興國云 乃大傳 乃云 乃大傳 乃云 乃大傳

と云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云

転改た 著乃 元日七年 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云

元日七年 再出 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云

九月 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云

乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云

乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云

元年 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云

乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云

乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云

乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云

乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云

乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云

元年 四月 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云 乃云

月日... 敬初先... 宝曆八年二月... 廿元良父... 七年二月... 侍... 廿年...

主... 三年... 十七年... 慈明公... 人乃... 廿年... 十月... 廿年...

六年四月に任す甲子たけのこのくさくさ平右衛門之二十四位
少輔兼心こころの家と譲る老若の神揚かみ月信 日十二年

八月九年平右衛門之死し中馬佐助初任通少若

と元禄二年三月月信揚かみ古任こにん 四若入りの月信古 其後父

乃任とあり月信揚かみ揚かみ 古任古の月信古 日九年三月

老公ちやうこう 乃西小姓せいせう 日九年六月父譲と任 三若

西小姓と任にんと日十二年二月四月の復かへりと日四年

中略乃任と兼西小姓平一任にんと蔵免くらひめと日正徳四

年二月元禄の隔へりおりとも享保四年七月知察ちさつ人

形かたちに付老若の國音任乃助一人馬治平知しる出

送るの由よしと奉たまる十二月西旅せいりょの事ことなりと日九年

十月に任にん一讓ゆづり休やすみと日九年三月父譲と任にん 月信 日九年

十一月に任にん一讓ゆづり休やすみと日九年三月父譲と任にん 月信 日九年

十一月に任にん一讓ゆづり休やすみと日九年三月父譲と任にん 月信 日九年

十一月に任にん一讓ゆづり休やすみと日九年三月父譲と任にん 月信 日九年

十一月に任にん一讓ゆづり休やすみと日九年三月父譲と任にん 月信 日九年

十一月に任にん一讓ゆづり休やすみと日九年三月父譲と任にん 月信 日九年

十一月に任にん一讓ゆづり休やすみと日九年三月父譲と任にん 月信 日九年

万の年一平一三ノノ死也初名男子なりし其父
十部佐徳之三男佐業と養ふ所嗣す平島佐業
初名寛延元年三月月佐徳と云はれ也父の位と云
台と物より二年
平小姓小太郎と云はる宝曆十二年父死し家断絶す二男
十石
中軍より配りおる先降の悔おする婦あり
兼通貫々平小太郎と云はる平土月職行し寛
政三年三月に平一先養ふ所揚子初名延業養父佐
業の子と兼通貫初名
佐業と云はるこ嗣し之罪あり
兼小太郎と云はる好田之親佐高と嗣し家断絶す

二男重祐小川 兼高の家と継ぐ二男幹孝玉造久邦
治兵衛初名嗣し之四男佐吉毛利義正中軍
お養ふ
三平今佐高安永八年九月月佐揚と云はれ也其降
平小姓小太郎と云はる寛政二年父の養と云はれ三男
十石日七年
お月大目月職小太郎と云はる
助之丞藤原重房貞と志摩守秀成四男也其父寛元年
四月 儲君真嗣公の平小姓小太郎也月保三平
佐業と云はる寛文元年
十月新小太郎と云はる百石大納戸乃平油奉り日七年
平免しと云はる元禄十二年二月に平一無原と云はる

老翁の料りし心徳二年七月九日死す此婦甲子年二月
交得父印行し家と成す 百石 大御戸赤
職を馬と高保正三年七月 小君 梅陽尾 小君と口戸
おとく口戸目方乃格お毎と也元文四年九月十九日
お十九日死す此氏乃甲子年二月九日死す此氏乃
高保正三年七月梅陽尾が死す此氏乃甲子年二月九日死す此氏乃
おはしし時西狩の日と云々此氏乃の首元と云 長保三年の西狩と云
富磨の事此氏乃の事と云々相お五年六月十九日死す此氏乃
を云の事おはしし大御戸格と云ハおはししと云と云と云 二月辛
乃門武属なり 婦甲子年二月九日死す此氏乃高保九年十月
口小姓お百石也 寛保元年六月父死しし家と成す

百石 安永六年六月死す 二階堂二二と号す 老翁の
料揚 明和三年三月十日死す此氏乃格お毎と云
四階と揚しし此氏乃格 高保 二階堂高保二年有英
と云 此氏乃格お毎と云 此氏乃格お毎と云 此氏乃格お毎と云
四年十月蔵傳お毎と云 此氏乃格お毎と云 此氏乃格お毎と云
此氏乃格お毎と云 此氏乃格お毎と云 此氏乃格お毎と云
也祖父元徳印行しし家と成す 百石 安永九年正月口小姓
小君と云 寛政二年四月格お毎と云 此氏乃格お毎と云
日七年三月大御乃今小君と云

幸長門藩の武蔵と三郎武蔵の三男の初名也
二年三月信長が後北の首元八百七十五石也宝暦七年十月
子長圓君 津田の北家後北の嗣とす 信長と海田乃家入也
一信長が中風あり弟と積一は安永七年十二月歿す
下信と揚石 七年 天保七年十月下信歿す 信長名 邦平
乃揚石歿す 七年 寛政三年六月迄 七年 七年九月迄
忠嗣 七年 元貞と養子嗣と
す 七年 信長元貞安永九年十月月信揚と古信と天保
四年四月小姓 七年 寛政三年父死す 七年 家傳也

百石 西小洲戸乃藏小進 同安永 七月江戸留守居り

副 七年 七年十月迄 七年 七年十月迄

治部右衛門藤原重門 忠兵衛元貞の弟也元永六年
信長が古信少右門也 村西身出く古信也 同八年父死
す 同市信 七年 同市信 七年 同市信 七年 同市信 七年 同市信 七年
將軍家上洛 七年 同市信 七年 同市信 七年 同市信 七年 同市信 七年
恙以公會厚乃地成 七年 同市信 七年 同市信 七年 同市信 七年 同市信 七年
市信 七年 同市信 七年 同市信 七年 同市信 七年 同市信 七年
元年八月留 七年 同市信 七年 同市信 七年 同市信 七年 同市信 七年

七月四年七千ノミキ 室吉ノカサ
武成ノミカキノ事
門下ノミカキノ事
...

一、時効ノミカキノ事
二、時効ノミカキノ事
三、時効ノミカキノ事
四、時効ノミカキノ事
五、時効ノミカキノ事
六、時効ノミカキノ事
七、時効ノミカキノ事
八、時効ノミカキノ事
九、時効ノミカキノ事
十、時効ノミカキノ事
十一、時効ノミカキノ事
十二、時効ノミカキノ事
十三、時効ノミカキノ事
十四、時効ノミカキノ事
十五、時効ノミカキノ事
十六、時効ノミカキノ事
十七、時効ノミカキノ事
十八、時効ノミカキノ事
十九、時効ノミカキノ事
二十、時効ノミカキノ事

小先達ノ死ニ由リてハ、如孫信忠ト嗣守シ、同平ノ入信ノ三

男十二歳、信常、信光、信賢、信直、信俊、信朝、信直、信俊、信朝、

信俊、信朝、信直、信俊、信朝、信直、信俊、信朝、信直、信俊、

信朝、信直、信俊、信朝、信直、信俊、信朝、信直、信俊、信朝、

信直、信俊、信朝、信直、信俊、信朝、信直、信俊、信朝、信直、

信俊、信朝、信直、信俊、信朝、信直、信俊、信朝、信直、信俊、

信朝、信直、信俊、信朝、信直、信俊、信朝、信直、信俊、信朝、

信直、信俊、信朝、信直、信俊、信朝、信直、信俊、信朝、信直、

信俊、信朝、信直、信俊、信朝、信直、信俊、信朝、信直、信俊、

信朝、信直、信俊、信朝、信直、信俊、信朝、信直、信俊、信朝、

信直、信俊、信朝、信直、信俊、信朝、信直、信俊、信朝、信直、

信俊、信朝、信直、信俊、信朝、信直、信俊、信朝、信直、信俊、

揚^{并百} 實之政元年四月廿五日庚午一ノヲクオハリ

此名なき男女の子ありて二ノ十部古門表包秋向

表^{左件只此と云ふ} 嗣^{左件只此と云ふ} 三ノ古門表包秋向

嗣^{左件只此と云ふ} 四ノ古門表包秋向

嗣^{左件只此と云ふ} 五ノ古門表包秋向

嗣^{左件只此と云ふ} 六ノ古門表包秋向

嗣^{左件只此と云ふ} 七ノ古門表包秋向

嗣^{左件只此と云ふ} 八ノ古門表包秋向

嗣^{左件只此と云ふ} 九ノ古門表包秋向

嗣^{左件只此と云ふ} 十ノ古門表包秋向

嗣^{左件只此と云ふ} 十一ノ古門表包秋向

嗣^{左件只此と云ふ} 十二ノ古門表包秋向

嗣^{左件只此と云ふ} 十三ノ古門表包秋向

嗣^{左件只此と云ふ} 十四ノ古門表包秋向

嗣^{左件只此と云ふ} 十五ノ古門表包秋向

嗣^{左件只此と云ふ} 十六ノ古門表包秋向

嗣^{左件只此と云ふ} 十七ノ古門表包秋向

嗣^{左件只此と云ふ} 十八ノ古門表包秋向

嗣^{左件只此と云ふ} 十九ノ古門表包秋向

嗣^{左件只此と云ふ} 二十ノ古門表包秋向

嗣^{左件只此と云ふ} 二十一ノ古門表包秋向

八月侍宿の歳となりて室永六年七月歳と稱し七幸可
正徳二年七月是る室永八年とて死す伝之甲子
二人あり二甲の元名共也右所行房の嗣なる物也
治部左門伝経室永六年十一月父の譲となりて百石
乃日蓮足の子なりと稱す享保十七年四月江戸に居
乃嗣となりて後中幸の 曰く六年十一月十三日
とて死す甲子なりとて此の室馬伝経より三男伝経と
とて女小倉とて嗣なり十郎兵衛伝経伝経の世なり
享保十九年三月是れと記す 百石 稱す杉田の令と

經より室永三年三月九日午年甲子とて死す甲子
なりとて此の梅原伝経 傳経より三男伝経と
金とて嗣なり治部左門 西後室永三年六月是れと
中より百石 傳経より三男伝経 傳経より三男伝経
室永七年二月 廿二日 傳経より三男伝経 傳経より三男伝経
乃格小倉とて後中幸の 傳経より三男伝経 傳経より三男伝経
傳経より三男伝経 傳経より三男伝経 傳経より三男伝経
乃之伝経より三男伝経 傳経より三男伝経 傳経より三男伝経
伝経より三男伝経 傳経より三男伝経 傳経より三男伝経

養子や^{なり}月信亦信お^はけ^りの^こも其後^は山内^の成實^の政元年^に小納戸^に乃^は蔵^に進^じ日^の六年^に孫^に乃^は松^に知^る也^の後^はの^り^百^名^の^り
他^は山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と
乃^は山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と
乃^は山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と
乃^は山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と
乃^は山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と
乃^は山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と
乃^は山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と
乃^は山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と
乃^は山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と

攝政寛永元年^に孫^に乃^は松^に知^る也^の後^はの^り^百^名^の^り
元年四月^に世^に身^に乃^は松^に知^る也^の後^はの^り^百^名^の^り
乃^は山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と
乃^は山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と
乃^は山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と
乃^は山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と
乃^は山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と
乃^は山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と
乃^は山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と
乃^は山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と山内^の成實^の政^と

二年 遂成... 享保六年二月八日死す是也
 子... 八十... 二... 元... 嗣... 内... 元
 弟... 死... 家... 弱... 子... 元
 年六月十七日... 年四月十七日... 死す... 傳... 元... 傳...
 保二年九月月... 揚... 百... 也... 傳... 小... 父...
 家... 若... 千... の... 職... 弱... 幼... 是... 乃... 元...
 政... 年... 三... 月... 初... 乃... 格... 小... 元... 乃... 傳... 元... 傳...
 元... 資... 中... 姓... 小... 百... 乃... 也... 實... 改... 三... 年... 六... 月... 父... 小... 先... 乃...
 院... 忠...

浅見 丹羽 本國加賀 家紋藤丸

浅見右門尉實高後胤宮内少輔 實忠男

藤原忠政 幼名小三郎 主膳 主膳正 掃部助 賜所家号 亦丹羽 母 禪慶公御息女

政常 三称 所左門致仕号 意悦 母同 重政

忠常 源七 所左門致仕号 意休 實同 姓 源 右門 重繼 二男 儀左 三門

忠族 母丹羽五郎兵衛長年女

忠登 縫殿 同氏 所左門忠舒養子

女子二 所左門忠舒妻 遠藤藤徳左門胤長妻

重政 主膳正 致仕号 宗印 母 堤權右門教與妹

重繼 初廣繼 因田源次郎 多宮 改政繼 源左門 致仕号 宗休 實朝去久世三左門廣宣末男

女子三 江口三郎左門正論妻 丹羽六左門秀正妻 養子 源右門重繼妻

重休 初政勝 虎松 主膳 圖書 改義忠 致仕号 若水 母 主膳正重政女

忠常 源七 同姓 所左門 政常 養子

政一 傳 吾丹羽五郎左門某養子

忠舒

源之進 所至門
實本家圖書我忠男

忠登

常之進 總殿所至門
致仕号 上家名
實同公儀左門忠族長男
求馬昇 競

延年

忠興

競

行增

兵部
下河田八郎左門行是養子

忠有

雅樂 所至門
母種橋王馬章興女

某

湊 生年

女子

盛田中庵哀妻

政吉

三称 常之進
母同氏圖書齋賢之養子

女子

林平介都門妻

忠亮

初忠純虎松源之介内膳圖書
母難波中納言宗量御息女 川原養女

長淳

政之介 丹羽一學清治養子

忠舒

源之進
丹羽所至門忠常養子

種春

幸吉
高橋九郎種貞養子

常晟

主計
浅尾常乃輝常養子

女子

丹羽五左門長道朝吉内室
丹羽傳十郎明行妻
大谷彦十郎信續妻

齋賢

初忠固虎松王膳圖書
致仕号 枕流齋浅見各宗後改香山
母大谷彦十郎信九女

正置

式部 内膳四郎兵衛正吉養子

忠順

兼松將監 致仕号 浅見恭保
母大谷彦十郎信續女

忠誨

源之助 内膳
母大谷彦十郎春連女

女子

浅岡殿介利政妻
山岡多膳美我定妻

某

定吉
母大谷典兵衛元貴女

忠謀

初齋行 右之介 圖書
母同上

實虎

小四郎
澤崎造酒右門實詮養子

女子

内膳新若右門公雄妻
大谷彦十郎信連妻
丹羽所至門忠有妻
細川内藏助 昌元 仕秋妻 田家

よはにこころもさる長き年八月江戸の戦ひより母衣
乃前々口役番と奉る九月不慮との九名是也若此
公山松林等のより也一法都一宮東ありとありと
おりも同じ常子信を奉り也此の思慮と信之感とより信若し世
中まよふ事の地信より一と信や
同八年七月常陸山古原一移りあり也一河不慮との也
執政乃藏ありと也 西家野とあり 揚子十九年の大
板の西陣と大将揚子信の信 口信一馳る也 梅野と
攻めぬ元和元年の甚大板の再再を記し一也 乙乃信
一先陣打と一記登り六月六日の戦ひ小柳原席信記也

きこひ守
ゆつこ とちの若口の部吉田家との間一信藤堂和子守
長子
乃信とゆり詔と討たへきと一味方の多き信常一進たりと
信軍藤堂能登守信吉原信記と信と信と信止なりと
よちと一信の端と一ゆり一進と一 乙乃信と一 甲也
信進と一信と一信藤堂の先陣あり也信常一進信常と
入りの信と七りの戦ひと二信と一信と一信と一信と一信と一
中筋是也 信也 乃信常あり一並に天王寺ありと一信と一信と一
乃乙よちの信と一信と一信と一信と一信と一信と一信と一
并あり一信と一信と一信と一信と一信と一信と一信と一

秀の重祿位大右元秀の赤江の事小知一と致す
流れと記句と云の乃若の如きと云を白根の事
歌集と云んふたりと云けも思山に道みふ
歌集と云んふたりと云けも思山に道みふ
ね者小切と云る歌と云ふ事と云ふ事と云ふ事
且つと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
年一もあつて秀の重祿位と云ふ事と云ふ事
小切と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
九条将隆の重祿位
宗任の重祿位と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
伊予守の重祿位と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

の重祿位大右元秀の赤江の事小知一と致す
流れと記句と云の乃若の如きと云を白根の事
歌集と云んふたりと云けも思山に道みふ
歌集と云んふたりと云けも思山に道みふ
ね者小切と云る歌と云ふ事と云ふ事と云ふ事
且つと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
年一もあつて秀の重祿位と云ふ事と云ふ事
小切と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
九条将隆の重祿位
宗任の重祿位と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
伊予守の重祿位と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

思ふ家者上と上格の字ありと傳ふ部の中小切入つて三と鳥根と鳥地と
北智知とやあせりん歌の足まかり礼やうめん年す三人のまゝと
台向のちありぬゆとして本としまひおとさのゆんる功修く修修と修修月
例に兼原の所りして所修とて依れとやゆらんと味方と制して兼原の所祀
とすいふものもあつた事かまひして依りた群くまを右に在修と修をもと再公共
修りてし修修とくはしとむ月々の修知も修修の先修修もくくをくしとす
修修も修修んとし馬と山年ふおゆらるなや修修と修修修修もくの修修
つととゆんし修修とくはしとむ月々の修知も修修の先修修もくくをくしとす
の大馬中修修のりらるらるらるらるらるらるらるらるらるらるらるらる
一と修修とくはしとむ月々の修知も修修の先修修もくくをくしとす
二修と修修とくはしとむ月々の修知も修修の先修修もくくをくしとす
三修と修修とくはしとむ月々の修知も修修の先修修もくくをくしとす
大馬の中修修のりらるらるらるらるらるらるらるらるらるらるらる
乃と年一修り入たはさる修修と修修とくはしとむ月々の修知も修修の先
修修とくはしとむ月々の修知も修修の先修修もくくをくしとす
一と修修とくはしとむ月々の修知も修修の先修修もくくをくしとす
修修とくはしとむ月々の修知も修修の先修修もくくをくしとす
修修とくはしとむ月々の修知も修修の先修修もくくをくしとす

とやう下やまらしとすの音と見ひけり馬修とくはしとむ月々の修知も修修の先
修修とくはしとむ月々の修知も修修の先修修もくくをくしとす
修修とくはしとむ月々の修知も修修の先修修もくくをくしとす
修修とくはしとむ月々の修知も修修の先修修もくくをくしとす
修修とくはしとむ月々の修知も修修の先修修もくくをくしとす
修修とくはしとむ月々の修知も修修の先修修もくくをくしとす
修修とくはしとむ月々の修知も修修の先修修もくくをくしとす
修修とくはしとむ月々の修知も修修の先修修もくくをくしとす
修修とくはしとむ月々の修知も修修の先修修もくくをくしとす
修修とくはしとむ月々の修知も修修の先修修もくくをくしとす

乃忠死室（一）の事（二）誠小法櫻の長と云り卑下忠政甲斐
 二人少く二男を所古奥内政等之婦甲斐王孫正室政元和元平
 父の遺徳と揚公（三）所請の皇孫を養育せし事（四）
 引く父忠政忠死より小重政五年以下たる若う（五）不詳
 公重政おとよの官門之九節（六）石橋高直傳と（七）所前小臣
 小重政五年未の事（八）河津山と（九）河津浦（十）守之
 との作と（十一）同七年執政の職おとよ（十二）河津山と（十三）河津浦と（十四）
 辭一官の事（十五）同三年三月（十六）河津山の上座と（十七）河津浦の上座と（十八）
 中佐一河津山の上座と（十九）河津浦の上座と（二十）同三年

と乃西佐一河津山同三年六月會津の口佐一河津山二年二月
 河津山乃みくと河津山（一）河津山乃みくと河津山（二）寛
 文五年十月河津山（三）河津山と（四）河津山（五）河津山（六）
 同三年六月河津山（七）河津山（八）河津山（九）河津山（十）
 重政甲斐乃みくと河津山（十一）河津山（十二）河津山（十三）河津山（十四）
 古奥内政等と養育せし事（十五）河津山（十六）河津山（十七）河津山（十八）河津山（十九）
 是田多官所傳と（二十）河津山（二十一）河津山（二十二）河津山（二十三）河津山（二十四）
 養育元年十月河津山（二十五）河津山（二十六）河津山（二十七）河津山（二十八）
 河津山（二十九）河津山（三十）河津山（三十一）河津山（三十二）河津山（三十三）

小姓乃茂子たること西隣の家との寛文元年閏八月
番改小妻とい三年六月日九年八月再々帰るは
おととのあ乃正休と奉る所無う是揚へ遊る日五年

十二月家と結く石 千有 延宝三年十二月日と 氏貞〇君

小妻のと隆はこものむりお守りなりし文小うに少くお守るに古守彦原氏貞
乃日長リハハチ 長リハハチ 天正五年二月氏貞唯雄の二叙とまはば一叙と 後長なすは揚へ
長妻の是とあるて一年はく西隣の家の小揚へ是揚はきりて又隣御を重す
表武のワヤとのたはお傍へ 長妻はあらうとはお守りて家常お守りまこといとし
事有しすくは力とせりまきく

お守りお傍へは魚子とい正月有 日七年十二月成仕一小休より
老養の料揚 二石 元禄十一年六月十日老養の料揚

小依と改う揚は 廿七 七月の年六午よりく男向く也

重継男なる者二男孫七忠常日姓改常く世結な

る二男佐吉改一父はは 何下候とぢちの是 百石 長流丹羽

某書 嗣や な 始つて圖書主候延宝三年十二月詰荒

お守り 言をのり お守り 日七年十二月家と結く お守り 合丹改小

下候とぢちのり日八年四月 長流の家と揚は天和二

年正月執改お進元禄八年三月下候は揚は 言石 今

年中候りとの 豊光 日十一年八月 巖松代結く

是し何 將軍家小御湯へ な 明年四月下候は

番改と宗也 言石 日十四年二月 恭多云云代 言石

上州 將軍家山陽備一守の年三月江戸の藩邦
と云く幸代平の年一と作らるる者乃と云く年と
許と云くは十六年十月江戸藩乃石壁平河中と河先
築との河先其年と奉行一切と云く
將軍家おる河先と云くは西暦の年八月布高
より一江戸の年十月歳と稱一享保十年六月江行
若くは一江戸の料の月日と云くは七月四日七歳
と云くは河先其年と云くは二月改之出長厚者
江戸一守と云くは二月改之出長厚者二月

嗣たり一四河先と云くは江戸の藩邦
江戸の年十月歳と稱一享保十年六月江行
若くは一江戸の料の月日と云くは七月四日七歳
と云くは河先其年と云くは二月改之出長厚者
江戸一守と云くは二月改之出長厚者二月

十二月報改乃減少也 延享元年二月の報乃 盛光との

宝暦元年六月夜の日の方日御弟同七年六月の力 貞行と

のり明和三年二月 雄策の世に在りて

將軍の家小御得 七年の年四月報改乃上青也 祐新百

同七年の月罪者 下原由公と 巻の居る年との

作との事 年實物留め此忠信と父子ありし事 幸記の罪のやうな事と云ふ 三月の海之

槐流舟と云ふ事 永原田女の子ありし事 長子乃此忠信

初名宝永七年六月下原由公と 治元たる 二百年 明和二年

正月昔改小御 祐新 同七年の月罪者 下原由公

と云は 技取 月信の 三月の 海之 保長と 忠

順の 田守と 内宿忠誨と 二田守之 吉事と 世にありし 三田

圖書忠信也 四田守 實の 澤崎 實詮 道長右衛門 嗣

なる 圖書忠信 明和七年の 月父 永原 罪者 下原 忠

誠 此の 事 八百の 治元たる 孫の知推しと云ふ事 六十年後

天明四年の 月小御 祐新の 改小御と 同七年の 四月報改乃

幸の ありし 年と 終りとも 寛政元年十二月報改乃 概子

と云ふ 祐新百の

内宿 祐原 忠誨と 將軍 忠順の 為田也 父 忠順 罪者

後安永四年五月下旬との記
此日之知推...
寛政七年六月小笠原信乃政成
おたる天の
三斗六月五日

下高野藩原政常と掃部助忠政うら内也初元寛永二年
傑彼公杉原おおつと付山小笠原信乃也
月信四日...
十五年九月...

同十年四月信乃奉り同十七年九月下旬との百五
同十年四月信乃奉り同十七年九月下旬との百五

安永二年六月地野...
同十年十一月信乃の...
百五名同二年行負の...
同十年十一月信乃の...
同十年十一月信乃の...

即ち奉獻らせり...
乃及小笠原を奉り同二年十一月職降と...
先陣の隊将おと...
月而信乃揚卒者 貞享元年四月病小信と職と辞り

同二年八月...
元禄二年二月...
なり...
初元信乃右衛門建常延宝八年二月月信揚と在り

初元信乃右衛門建常延宝八年二月月信揚と在り
初元信乃の位
とあり言 貞享二年八月父信乃と文...
海軍中軍あり

元禄二年二月...
なり...
初元信乃右衛門建常延宝八年二月月信揚と在り

初元信乃右衛門建常延宝八年二月月信揚と在り
初元信乃の位
とあり言 貞享二年八月父信乃と文...
海軍中軍あり

初元信乃右衛門建常延宝八年二月月信揚と在り
初元信乃の位
とあり言 貞享二年八月父信乃と文...
海軍中軍あり

元禄九年九月五日

元禄九年九月五日

元禄九年九月五日

元禄九年九月五日

元禄九年九月五日

元禄九年九月五日

元禄九年九月五日

元禄九年九月五日

元禄九年九月五日

元禄九年九月五日

元禄九年九月五日

元禄九年九月五日

元禄九年九月五日

元禄九年九月五日

元禄九年九月五日

元禄九年九月五日

元禄九年九月五日

元禄九年九月五日

元禄九年九月五日

元禄九年九月五日

元禄九年九月五日

降乃降乃西龍のまゝりとて... 天徳元年四月
 二月月保揚... 天徳七年二月九日
 宗徳公... 長門守長俊朝臣嫡男

丹羽

宗徳公... 長門守長俊朝臣嫡男

藤原長清

五郎兵衛 母大谷典兵衛元秀女

長羊

五郎兵衛 致行子 水
 母丹羽石見正次女
 丹羽久馬介重時妻
 大谷典兵衛秀信妻
 下河辺八郎在清百秀妻
 上田清五郎林友妻

清治

八右門 五郎兵衛 一學子
 母丹羽勘々由正行女
 儀左門米女 權左門
 致行号蘭月 母同上

長淳

政之助 長左門 一學子
 實丹羽國書義忠三男

俊智

丹羽久馬介長雅妻
 丹羽前左門忠常妻

女子

美長子一學長淳妻

女子二

源之進 權左門 致行号遊悦
 實上崎金右門某二男

庸貞

初長胤 主税 五郎兵衛兵部左門
 母一學清治女

俊信

長常 采女之助

女子

養子權左門俊信妻

俊亮

源之進 權左門
母同氏權右門俊智女

國忠

金五右
鈴木又左門國甫養子

季子親

二郎五郎
秋田大夫幸吉秋田養子

孟成

寺田儀兵衛正辰養子

俊親

淺之進 儀左門 權左門
致仕号退春

女子

實貞與田大進貞通二男
養子權左門俊親妻

俊區

淺之進 權左門

義輔

二件
磯村文藏義紀養子

丹羽

附權左門俊智

長俊 長門守長清

宗徳 長門守 長門守 長門守

長俊 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守

天正五年 進江必 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守

我之 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守

長門守 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守

長門守 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守

長門守 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守

長門守 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守 長門守

重綱 十郎大夫

康徳 主税
母丹羽庄兵衛真成女

女子 二人
安保忠左門實綱妻
成田弥左門正春妻

貴久 初庸叔 富吉 主税
母江口三郎右門正存妻

勝繁 直治
中川縫殿右門勝齋養子

一石原の^{百名}寛永四年八月石原の^{百名}は去年三月
 普治の成金^{百名}なる家^{百名}上落^{百名}なる^{百名}
 是乃石原^{百名}は十二年九月十二年十二月^{百名}
 忠好男^{百名}寛永十二年正月家と^{百名}
 明暦二年九月^{百名}寛文元年十月普治^{百名}
 石原^{百名}は七年八月降^{百名}
 此仗と奉^{百名}延宝七年堂波の^{百名}
 十月^{百名}元禄二年九月石原^{百名}
^{百名}日七年二月歳と^{百名}日八年六月仕入^{百名}

可^{百名}石原^{百名}老^{百名}料^{百名}
 西^{百名}二^{百名}寛^{百名}
 百名^{百名}元禄八年六月父^{百名}
 石原^{百名}は十二年七月普治^{百名}
 石原^{百名}の石壁^{百名}
 副^{百名}正徳二年^{百名}
 丹羽^{百名}

改之助長厚と養をこつ娘小令と嗣年一學長厚由由
六年三月後元小令と也二名正徳四年父死一と也
其時京保元年三月番改小令と也同十八年歸由由
相と也の正位と奉り元文二年四月七日安永元年也長
濱田子二人有る二男並女一由長年八月傳言の如く侍士
乃列小百位り一り小世とありす三男り十郎り又重綱二名
六月甲申中右位下御前口五平甲申於中左衛門少
信と小重綱の孫子也と也明和二年十月甲辰 媽甲子部及門廣貞初名
元文元年十月信元小成二名明年父の家と改二名
小重綱の改番及と馬と宝曆八年三月信守小五と信元

年六月廿日 正清乃家と明和二年六月朔日年四十六と
才内うの忠媽甲子税庸徳宝曆十二年九月信元小成
二名 山と二年父の家と改二名 番改改改と日七年二月
報改乃機小令と也信守 安永二年四月十八と年四十八と
と一安永元年の忠庸徳甲子二人有る二男並女一由長年八月傳言の如く侍士
能重綱 嗣とたる媽甲子税庸徳安永二年父死一と
家と改二名 信元小令と也父の信と也 日六年八月十五と日清
乃字とあり天明六年十月番改小令と也寛政七年
世乃信と改と也の所位と奉る

於吉野門内藤原俊朝の少子長平三年二月也元禄六年七月
四小姓百仕也月信三日八年六月父知信の時中務とあり
の百名曰十年四小納戸乃職小進父其後長平の職と奉り
享保十年四月甚く乃なりおたると也曰十年日光寺
神宮乃経管と助りとありの時長平元文元年二月那
乃なり小進と三月務と授け揚乃乃右曰四年十月知信
一閑月也早う一明年七月十七日六年十二月に死す俊
智田子なり一上侍官二男俊信と養正
己の女小舎と嗣と家と継ぎ百名三男乃なりと奉り

明和二年二月致仕一於院とあり一老養の神の守り
二年四月二十二年六月に死す媽田權右衛門俊亮室
暦三年月俸の終り百仕也父知信一と家と継ぎ明和八
年八月九年三年九月に死す俊亮嗣なり一と奥
田貞通大進三男俊親と嗣と守於吉野門俊親明和六年
十月父の遺恨とあり百名其後長平乃職と歴と安永七
年四月に格乃の事一可なり格と叙と也寛政四
年二月に格乃の事一退まるとあり一明年四月三年四
十四に死す媽田權右衛門俊富家と継ぐ百名

